

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

5c6 回目キングダムセミナー

賛美 0:16:28.54

第5クール目は、1月から始まって4月まで、創世記の1章から4章あたりまでを深く読んでいきました。それを土台にして、先月から、セミナーそのものの内容に入っています。引き続いてどうぞ、初めの1回目からの土台を大事にして、進めていきましょう。

それで、先月は、神様が蛇に向かって語られた『女とお前との間に敵意を置く』また、『女の子孫が、お前の頭を踏み砕く』（創世記3:15）という、その内容に入っていました。

それでは、いったいどうやって、女の子孫は蛇の頭を踏み砕くんですか？

これ、とっても大切なところなんです。前回言いましたところ、皆さん、心にしっかりあるでしょうか？

（また、そこを繰り返すわけではないけれど、・・・）簡単に言うと、“女の末”って勿論、“ひとりのメシア”、“イエス様”のことを指していますけれど、イエス様がどうやって蛇の頭を踏み砕くことになったんですか？そこなんです。大切なところは、だから、これを言い出すと、こればかり話して、1時間位もつい話してしまうんですけどね、前のところをしっかりと自分のものとして、今日のところを進むためにも、もうちょっと聞いてくださいね。20:04.53

まず初めに、神様が蛇にそういうことを、言ったという原因は、「食べてはならない」と言われた“善と悪を知る木の実をアダムとエバが取って食べた”と言うことが、原因(?)だと・・・そうなんですけれど、原文を深く読んで説明してきましたとおり、善と悪を知る木の実をとって食べるに至ったプロセスがあるんです。そうでしょう。彼らがそれを食べるように蛇が誘導していくプロセスがある。そこを言ってきました。

単にね、“善と悪を知る木の実を取って食べちゃった”から、“神様が食べるなど言われたのに食べちゃった”から、神様の意向に背いたから、不従順だったから、“罪”なんだと言う。そういう括りで、言おうと思えば、それで終わってしまうこともできます。21:30

けれど、我々が知るべきなのはその深みです。取って食べるなど神様が言われた。その命令に背いたから、だから、人間は罪に落ちたんだと、聞いてきました。まあ、そのとおりなんですけれど、でも、・・・
〈その木の実を食べるに至った〉のは、アダムとエバは、神の息をもらって、神の霊をもらって分け与えられて、『支配せよ』と、そのために造られていた、その『権能』を神様から預かっていた。神様と向き合っ
て、『エゼルケネクドウ』の関係でいた（・・・ヘブライ語の学びをした時、言いましたよね、『エゼルケネクドウ』、『ふさわしい助け手』と訳されているヘブライ語のことですけれど）、今まで神様と互いに向き合っ
て、真正面から向いて、『わたしとあなた』と言う関係でしっかりと歩んでいたんです。そういうふうに造られて、歩いていたところに蛇が、やってきたんです。

『全部の木の実を取って食べるなど、神は本当に言ったのか』と。（創世記3:1）それで、女は言いました。「いえ、全部の木の実から食べて良いのです。ただ中央にある木の実、善と悪を知る木の実からは取って食べてはならない。」と言われたのです。蛇は、「決して死にません。」と言った。その次「神様は知っている

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

んだよ」と言いました。「神様は知っているんだよ。あんたたちは知らないけど・・・」という言いまわし。
その言葉が一番、最初に来るんです。そしてエバは、蛇と向き合い、神様を三人称にした。次のところに
ね、これまで『主なる神は、』と言ってきたのに、蛇は『神は、』としか言っていない。それで、エバも『神
は、』と言うようになる。このようにして、蛇は、女と神様のとの間に楔を打ち始めました。24:47.85

『わたしとあなた』と歩んでいたのに、いつの間にか『私と彼』『私とあの人』そして『私とそれ』になっ
ていくんです。神様は何よりも、私と真正面から向き合い、言いたいことを隠さずに言い、相談し進んでい
くんでしょ。だから『“善と悪の木の実を取って食べる”ということオンリー』が、『神様の命令に背い
た』という、そこだけをとったら、その深みがわかりません。25:57.19

それから、主である神は、その後で『女の子孫がお前の頭を砕く』（創世記 3；15）からと言ったんです。
なんで女の子孫なんですか？なんで女はそのために、産み育てる苦しみを負うんですか？苦勞しないといけ
ないんですか？その女を、また人間を養い、生きるために男は額に汗して、その労苦を背を負わなければい
けないんですか？

神様がね、そんなに頭を砕きたいんだったら、神様が蛇をガツンと、やればいいんじゃないですか？
 いえいえ、神様は、それは、出来ません。なぜならば、支配する権威を、神様は、アダム（人）に与えてい
たから。その人（アダム）が、自分達の権威を使わずに、地に這うものを治めることをしないで、かえっ
て、治められてしまった。ハメられてしまった。

このことに対して、神様は、『おい待て、支配権をお前にやったんじゃないぞ』と、蛇をガツンとやれな
 いんです。なぜなら、それだけ信頼して、『我と汝』で歩んできて、『支配権』を与えたアダムとエバが、蛇
にそれを渡してしまったからです。“善と悪を完全に知る”と言う神様しかできないわざを彼らは、自分達も
 できると、思って、食べてしまったという・・・それで、蛇から取り上げて、『お前のじゃあないぞ。はい、
 ポンと、人間にやる』という、そんなことは出来ないんです。28:25.05

だから、今度その『支配権』を、また、人の手に戻すためには、神様は、どうしたいのか。

人間に与えた『支配権』を神様は、しっかりと尊重しておられる。

だから、この後、もう一度人間が目を開いて、学んで、自分達の支配権を、神の王権を取り戻して、そのわ
 ざに成長していく、成熟していくこと。その方法しかありません。

じゃあ、そうするためにはどうしたら良いのか？29:25.08

そのサタンの支配下の中に落ちてしまった人間に対して、主なる神は、その人間のすったもんだして苦し
 む、そのもがいている実際の姿の中に、もう一度、新しいアダム（その罪と支配の中にいないアダム）を送
ることしかなかったんです。そしてその新しいアダムは、（古い第一回目の）初めのアダムが失敗したそのと
ころを、自分で完全にカバーできるようにやり直して、かけ直して、完成させるようにすること。その新し
いアダム（イエス様）は、サタンの支配の中にいないにもかかわらず、そこにいなくても良いはずなのに、

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

人間と同じ苦しみともがきの中に入って来て下さった。同じようになって。

そして、蛇が狡猾にエバを騙して神様と『私とあなたの関係』だったのを崩してしまったその中から、新しいアダムの、もう一度やり直して、『わたしとあなた』と言う神様が望んだ本当の『エゼルケネクドウ』を“造り上げ”、“完成させる”そのために送ったんです。

イエス様は、しぶしぶイヤイヤ来られたんじゃないでしょ。その辛さは、分かっていたけれど、イエス様は喜んでその道を歩んでいかれた。そうですね。だから十字架の上で、『わが神、わが神、どうして私をお見捨てになったのですか』と言う詩篇の22篇の全てを言いたかった。その詩篇の22篇を先月、細かく読みました。すなわちイエス様はあの苦しみの極致の中で神様に向き合い続けられた。全部、自分の苦しみも痛みも自分の恥ずかしさも告白しながらですよ。イエス様は、最後に『勝利の凱歌』を挙げ、すべての人に『喜びを告げ知らせよう』と、そう言いたかったわけです。そして『完了した』と。そして生き絶えられた。そういうことでした。33:49.25

この間の詩篇22篇のプリントしたものを、誰か持っていらっしゃいますか？・・・はいこれです。

詩篇の22篇1篇から5篇までが、『汝への叫び』、6.7.8篇が、『見捨てられた姿』、9.10.から18篇までが、『見捨てられた姿』、19.20.21篇までが『汝への叫び』、そして、22.23.24篇までが、『我の決意と宣言』。

辛いこともいっぱいある。それを別に嘸嘸いて黙っていません。そのまま、告白します。けれども、その中にあって、自分の決意と宣言を、ハッキリと言う。それで『わたしとあなた』との“勝利”だということだけではなくて、その勝利の意味するところは、『神の国、共同体性の完成』の“勝利”なんだと、いうことです。35:46.26

ですから、聖書の中に、このことを大事に述べています。それをみなさん、聖書を読むときに、見つけるはずなんです。例えば、ちょっと、聖書を開きましょう。36:08.36

今日は、聖書の御言葉を沢山読みますよ。まず、ヘブル人への手紙のところを開いてみて下さい。ヘブル人、つまり当時のユダヤ人への手紙となっているから、旧約聖書の中をよく知っている人向けに、イエス様の十字架の意味が、述べられています。だから、そのつもりで、読まれるといいですよ。37:14.64

ヘブル人への手紙、(本当は、最初から読んで行きたいところですけど)2章10節あたりから読みましょうか。しばらく、ゆっくり読んでみますね。書いてある内容をよく噛み締めながら、読みましょう。

ヘブル2:10 神が多くの子たちを栄光に導くのに、彼らの救いの創始者を、多くの苦しみを通して全うされたということは、万物の存在の目的であり、また原因でもある方として、ふさわしいことであったのです。←こんな言いまわしや言葉を、普段私達は使いませんから、一回、ペロッと読んだだけでは、「何を言っているの？」というふうに、思うかもしれませんが、どうぞみなさん、何回も読んでください。

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

神が多くの子たちを栄光に導くのに、彼らの【救いの創始者】←創始者とはイエス様のことですが、
イエス様は【救いの創始者】とは、なんのことですか？

最初のアダムが成し遂げ得なかった神様との関係、初めのアダムがしくじってしまった【神様との真剣なエゼルクネクトウの関係性】、【我と汝との関係】をイエス様は、苦しみの極致、全ての人類の苦しみを
知りながら、最後まで貫かれたんです。『我とそれ』にはならなかった。神様と【“わたしとあなた”を貫
かれた】んです。それを【信仰の創始者】と言われているんです。【信仰の完成者】、【作り上げた人】だ
と言っているんです。

それは、私たちを含む“多くの子たちのもとにあった栄光に導くのに、”・・・もとにあっただけではなく、
神様が創造の初めから造り上げようとしていた本来の栄光に導くために、【信仰の創始者】を、多くの
苦しみを通して、全うされたのです。それは、〈万物の存在の目的〉なんです。】と言っています。【神が
天地創造された万物の存在の目的】なんだと言っている。その次、また原因でもある方として、ふさわ
しいことであつたからです。←もう、重々、承知の計画だった、わかっていることだった。そうするつもり
だった。41:34.27 その次、

11 節、聖とする方も、聖とされる者たちも、すべて元は一つです。←何を言っているんですか？

これ、今回も創世記の初めから、しっかり聞いた人は、わかりますよね。『聖とする方』、神ご自身も、聖と
される人々、私達も全て、元は一つなんです。それはど、初めのアダムと神様とは、美しい一つの共同
体だったんです。それで、主は彼らを兄弟と呼ぶことを恥としなかったんです。

聖とする神様は、これをもって聖としようとするもの達を初めは、本当に被造物の一つとして、しか見てい
なかったとか、汚れようが、壊れようが、ほんの一つの被造物に過ぎないんです”と言うのじゃないんです。
【全て、元は一つ】です。なんと光栄なことでしょう。そして、こう言われます。

12 節『わたしは御名を、わたしの兄弟達に告げよう。教会の中で、わたしは、あなたを賛美しよう』←
「賛美しよう」ということは、「祝福しよう」、「褒め称えよう」ということ。

13 節、またさらに、『わたしは彼に信頼する』またさらに、『見よ、わたしと神がわたしに賜った子たち
は。』と言われます。

14 節、そこで子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちにな
りました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼすためです。←今、先程わたしが
言った通り、悪魔の頭を砕くために、私たちと同じ血と肉を持たれたのです。

15 節、一生涯死の恐怖につながれて、奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした。

16 節、主は御使いたちを助けるのではなく、確かに、アブラハムの子孫を助けてくださるのです。←アブ
ラハムの子孫といたら、ユダヤ人ですから・・・ということを行っているのではないですよ。アブラ
ハムによって全ての民族が祝福されるということは、私たちすべての民族を助けて下さるということです。

17 節、そういうわけで、神のことについて、あわれみ深い、忠実な大祭司となるため、主はすべての点で
兄弟たちと同じようにならなければなりません。それは民の罪のために、なだめがなされるためなの
です。

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

18 節、主は、ご自身が試みを受けて苦しまれたので、試みられている者たちを助けることがおできになるのです。46:30.87

イエス様が宣教の初めに、サタンに試みを会われました。40 日 40 夜の断食の後で、その時に、サタンは、言いましたよね。「この地上のすべての栄光、栄誉をあなたにあげるから、私を拝みなさい、そしたら、そうしてあげる」と。つまり、サタンは、「これらのものは、全て私のものだ」と言っているんです。

マタイ 4:1-11 に、「これらのものは、すべて私に預けられている。私のものだ。だから、私を拝むなら、あなたにあげよう」と、言っている。イエス様は、そのサタンの誘惑に、「いや、お前のものではない」と言っていないよね。だけど、神との関係の中で、『神だけを愛せよ、仕えよ』と、書いてある。「・・・と言って、サタンを退けられた」と、書いてある。それも、サタンを退けたんだけど、サタンは、『その次の時まで』っと、限定して言っているんですよ。あるいは、『しばらく離れた』としか書いてないんです。

その次とは、いつ来るんですか？この“十字架の時”です。きっちり、イエス・キリストの息の根を止めて「よっしゃ、これで勝った」と、思ったんだけど、神様は、信仰を完成した御子イエスの中に、サタンとシンクロするものは、何も見つけることができなかったんです。だから、そのイエス様をよみがえらせることができた。サタンは、イエスを自分のものにしようとおもったけれど、天の父のもとによみがえっていかれてしまった。49:23.43

この“信仰を完成されたイエス様”を見上げて、イエス様に心を開き、エゼルケネクドウする人は、イエス様の勝利を、よみがえりを、自分のものとする。そう言うことですよね。50:43.68

はい、では、キングダムセミナーの本に戻ります。本の 23 ページを開いて下さい。初めに、ここに書いてある箇所、ローマ 6 章の 3 節から 11 節を読みますので、聖書も開いて下さい。ローマ 6 章の 3 節から、見て下さい。このように書いてあります。さあ、しっかり、ゆっくり読んでいきましょうね。51:20:99

ローマ 6:3 それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死に預かるバプテスマを受けたものではありませんか。←このパウロの言うこと、分かりますか？私たちは、「はい、信じました。洗礼を受けたいです」と、洗礼を希望しましたが、それって何ですか？クリスチャンになる為の儀式？教会員になる為の通過儀礼ですか？バプテスマというのは、浸礼と言って、浸す、「水に浸す」というあの言葉です。滴礼と言って今、頭に水かける洗礼式が多いけれど、キリスト・イエスに「つく」バプテスマを受けた私たちはみな、その死に預かるバプテスマを受けたと言っている。

あのね、ここに、聖書を読む時の物凄い大事な見方があるんだよね。神様はね、初めにアダムを造られましたけれど、たった 1 人のアダムという個体だけを見ていたんじゃないでしょう。初めにアダムというものを造って、「産めよ、増えよ、地に満ちよ」と言って、アダムから増え広がっていく多くの人々を、最初めのアダム、一人の中に見ていたんです。アダムとエバというもののの中に、多くの人を神様は見ると。

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

それから、後にノアの洪水でのノアの家族だけが残ったよね、そのノアとノアの家族の中に、すべての人をまた見ていたんです。また、その後にアブラハムという人を選ぶよね。そのアブラハムの中に、すべての民族、すべての地上の人々を見ていたんです。

地上に何十億人いるけど、神様は、この瞬間に「はい、・・・」と言って、それをいっぺんに、祝福します。神様は、一人の人を初めに選んで、その人を通して、すべての人を見ておられるということ。だから、キリストが十字架上で、神への『我と汝』の関係で貫き通して、完成したんです。その極致である十字架上の死の中に、人類の『背き』、『罪』と言われるもの、『我とそれ』の中に、入り込んだすべての人を、この第二番目のアダムの完成した、創造した、信仰の中に見ていたんです。 55:52.18

この神様の『ひとりの人の中に多くの人を見ている』というこの見方は、神様だけが出来ることやることじゃないんですよ。それを神様は、私達一人ひとりにも、任せておられる『キリストの共同体』というものがある。また、その件については後ほど。 56:23.18

だから、イエス様が、この“完成する”、この“極致の死の中にいた”ということの中に、すべての人をここに見たんです。このようにすべての人を見たんです。“極致の死の中で、完成されたイエス様の信仰の目で、すべての人を見た、その中で見られている自分を意識して、キリストを自分に寄せたあなたは、バプテスマを受けるんです。受けたんです。それが、どういうことかということ、『あなたも、キリストの十字架で、死んだんだ』ということです。「もうあなたの全ての過去のしくじりも、“我と汝”を失ったその全ての報いもキリストの十字架の中に死んで、葬られたのです』と言っているのです。 57:27.37

はい、次、ローマ 6：4 節、私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストと共に葬られたのです。それはキリストが御父の栄光によって、死者の中からよみがえられたように、私たちもいのちにあって新しい歩みをするためです。5 節、もし私たちが、キリストにつぎ合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。6 節、私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。7 節、死んでしまった者は、罪から解放されているのです。←もう死んでしまっているからですよ。死んでしまった犯罪者をどうやってまた処罰できるんですか？もう、死んでしまいました。」

8 節、もし私たちがキリストとともに死んだのであれば、キリストと共に生きることにもなると信じます。

9 節、キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことなく、死はもはやキリストを支配しないことを、私たちは知っています。10 節、なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。11 節、このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者だと、思いなさい。 1：00：13.15

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

だから、いつまでも、いつまでも、自分の罪がどうのこうの、ああだ、こうだと、それを悔やみ、ぐずぐず、ぐずぐず、その場に立っているということが、どんなに愚かしいことかということです。

クリスチャンになっても失敗はしますよ、ね。で、肉によって振り回されますよ。それはありますよ。もし、それがあつたら、シャキッと悔い改めれば良いんです。ぐずぐず、ぐずぐず、自分をねちねち、ねちねち針で刺して、ああだこうだ、私なんかどうのこうのと言っていると、イエス様の十字架の死を、あなたが踏みつけることになる。

で、神に対しては、「キリスト・イエスにあって、生きているんだと思いなさい」と言っている。以前にも話しましたが、これ、新改約で、『思いなさい』と訳しているんですけど、この訳は、ちょっと弱いんです。本当は、会計用語とされているこの言葉はね、帳簿にずーっと数字を書いて、最後にキリッと定規で線を引いて（←この頃そんな帳簿を書く人いないよね。ネットでやれるから）、はい、これで完了だと、もう明確な決定を言っているわけです。この言葉、『ロギゾマイ』というんです。『認めるべきだ』という意味がある。他の箇所では、『認めるべきだ』と訳しているのに、なんでこの11節だけ、『思いなさい』と、訳しているのか、・・・「思いなさい」だったら、「思わないけど、そう思っておきなさい」みたいに聞こえるじゃないですか、ね。1:02:45.29

はい、その次、もう1箇所、（その横の）エペソ2章4節から6節までを読みます。とっても大切なところなんで、聖書の言葉をゆっくり確認して読みますよ。エペソ2章

4節、しかしあわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、

5節、罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。——

6節、キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに、天の所にすわらせてくださいました。ハッキリと書いてある。1:03:59.29

7節、それは、あとに来る世々において私たちに賜る慈愛によって明らかにお示しになるためでした。

8節、あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。←7節に“あとに来る世々において”と、書いてありますが、このイエス様が来られた、この時、この時代に、どうのこうのと言うんじゃなくて、あとに来る、ずーっと続く世々において優れて豊かな神の恵みを、イエス・キリストを通して、その中で私たちに賜ること、そして、示すこと、そうなるためなんだと。それを受け止めようということです。

9節、行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。10節、私たちは神の作品であつて、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。←良い行い、すなわち、神の栄光を現す、わざにおいても、品性においても、徳においても。キリストの品性、行為を現すために、造られた、その良い行いというものは、わざは、あらかじめ、備えてくださったと書いてあります。1:07:04.43

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

私達が生きる上での良いわざ、神のわざを神はすでに備えておられるというんです。それで、23 ページのその下にある御言葉ですが、・・・もうこの本の中に書いてありますので、それを見て下さい。1 個や 2 個ではないですよ。この言い方、次のように沢山あります。

私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。(ローマ 6:4)

↑これはさっき、読みましたね。その下も、

もし私たちが、キリストにつきあわされて、キリストの死と同じようになっているなら・・・。(ローマ 6:5)

私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、・・・。(ローマ 6:6)

もし私たちがキリストとともに死んだのであれば、キリストとともに生きるようになる、と信じます。

(ローマ 6:8)

罪過によって死んでいたこの私たちをキリストともに生かし、・・・。(エペソ 2:5) キリストにおいて (中で) ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。(エペソ 2:6)

もし、私たちが、彼とともに死んだのなら、彼とともに生きるようになる。(IIテモテ 2:11)

・・・私には、キリストを得、また、キリストの中にある者と認められ・・・。(ピリピ 3:8.9) 1:08:52.87

【私たちは、キリストの中に置かれ、キリストの中に見られている】ということ、を、「認める」ことが、【バプテスマを受けた】ということの意味です。

一人になってじっくりと、【自分がキリストの中に在る】というのは、どういうことか、じっくり自分の中で、納得のいく、リアリティがあるまで、思い巡らす必要があります。頭の端っこで、「あっ、なるほど、そう言ってんのね」っていうのでは、変わりません。 1:09:56.88

はい、24.25 ページ、これは、この前、もう口で（告白して）言いました。これをまた、後で読んでみておいて下さい。是非。1:10:22.02

次に、26 ページを見て下さい。

《キリストにあって・・・》日本語の聖書を読んだ人なら、誰でも何回も目に飛び込んでくるこの言い方を知っているはず。『キリストにあって・・・』、『主にあって・・・』、『キリスト・イエスにある』、『この～にある』という言葉です。これが新約聖書の中で百数十回出てきます。私は聖書で最もよく出てくる言い方で、かつ、最も重要だと言って良い表現の中でこれほど意味に関心を持たれていない言葉はないと思っています。大体、この「～にあって」は、私たちの日常生活で、ほとんど使わない言い方です。私たちは、「私は田中さんにあって」と言ったりしません。ですから、読んでいる私たちには、どうもピンとこないままで分かっているようなつもりになってしまうという、実に奇妙な言い方なのです。原文のギリシャ語では、『エン、キリスト (キリストにあって)』の「エン」で、これは、英語でいう「in」ですから、「カバンの中に本がある」というふうに「～の中にある・・・」という意味が、基本です。幸い漢字では、『在る』で、ずばり『存在する』ということを行わんとし、平仮名より漢字の方が意味が理解しやすいようです。

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

ですから、【キリスト・イエスの中に存在していて・・・】と、一つ一つを読み変えた方が、意味が抽象的にならず、【キリストの中に入れられ】、【置かれ】、【含まれ】、【組み入れられたもの】、あるいは【属せられた者】としての実感を持って読めるでしょう。

例えば、ガラテヤ 3 章 28 節の後半を読みましょう。

・・・あなたがたはみな、キリスト・イエスの中に存在していて、一つだからです。(ガラテヤ 3・28) と、書いてあるんです。1:13:24.48

26、27 ページの《私はキリストにあって・・・》というのを、前にやりましたね。

それから、28 ページ、見て下さい。《勘定しておきなさい》これも、さっき、話しました。ローマ 6 章 11 節の「・・・思いなさい」というのは、弱い訳だと。

その次、29 ページ見て下さい。

《この啓示があなたに癒しをもたらします》

『イエスの中にいる私』が、あなたの啓示になるなら、あなたは主の平安と安息に包まれるんですよ。あなたが倒れても、窮しても、それは『イエスの中にいるあなた』なのです。イエスは決して窮することはありません。あなたはキリストのただ中にどっぷりと憩い、安息することができます。

あなたがゆだねる以前に、あなたは信仰を持った時点から、【イエスの中にゆだねられた存在】です。この啓示があなたに深い癒しをもたらします。

だから、教会に行って十字架を見上げるでしょ。テキスト 24 ページにも書いてあるので読んでいただけると、良いのですが、・・・十字架を見る時に、あの十字架にかかったのは誰ですか？と聞かれたら、「イエス様です」というその答えは、50 点です。あの十字架に誰がついたのですか？と聞かれて、「ああ、それは、私です」「私がつきました。」と言って良いんです。イエス様の中で、で、その答えは、100 点満点です。

イースターの時に「イエス様！イエス様がよみがえられました」と言って、祝ったりするじゃないですか、それは、50 点です。よみがえられたのは誰ですか？と言われたら、「はい、それは私です！」と言って良いんです。言わないとダメなんです。それが 100 点です。マジ、そうですから、ね。この点をしっかりと押さえておいて下さい。あんまり聞いたことがなかったかもしれませんが、【聖書が言わんとしている、初めからの見方】です。だから、自分自身が、イエス様の中に置かれた者なんだ、キリストの中にもう、置かれたものなんだという、発想を持たないといけません。キリストの外にいて、キリストからだいたい離れて、歩むというのは、あり得ません。はい、そういうことで、休憩の後は、今度は、私の中にイエス様がいるという、もう一方の面を深く見ていきたいと思います。

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

後半 00:13.82

はい、では後半を始めます。

《私達とイエス様との一致》というテーマのところで、それは、【イエス様の中にいる私】という面と【私の中にいるイエス様】という面と、そういう2つの面を深く見えています。宜しいですか？

それで、前半見たのは、【主の中に私がいる】その安心感、その平安ですよね。で、30ページを開いてみて下さい。さあ、この時間は、ちょっと、緻密な時間になりますよ。眠い人は、本当に寝落ちするかもしれません。どうぞ、ほっぺたを叩いて、ね・・・ここは、とっても大切なところです。

どうぞ、しっかり自分のものにして下さい。これがどんなに大切かというのは、もう、あとになるほど、分かってきます。ここが、自分のものとなるかならないかは、大違いですよ。

【イエス様の中にいる私】と【私の中にいるイエス様】いいですか？はい、ゆっくりやっています。

30ページにちょっと目を通していきますよ。2:28.42

《主との一致【私の中にいるイエス】》

では次に、【私の中にいるイエス】とはどういうことでしょうか。まず、先に挙げた御言葉を再び開きましょう。

Iヨハネ 3章 24節。「神の命令を守る者は神のうちにおり、神もまたその人のうちにおられます。神が私達のうちにいらっしゃるということは、神が私たちに与えてくださった御霊によって知るのです。←これ皆さん納得ですか？大丈夫？このキングダムセミナーはもう5回目ですから、もし、初めから聞いておられる方がいれば、何回聞いておられることか、ね。御霊によって、神が私たちのうちにいらっしゃるということは、大きなことです。『御霊によって知る』ってどういうこと？次、読んでみますよ。

あなたのうちに主がおられると言う証拠は、あなたのうちに与えられた聖霊だと言う事は明白です。それでは聖霊とは一体どのような働きをするのでしょうか。御言葉から、そのまま並べてみます。

以下は、ヨハネ 14章 15章 16章、そしてIIコリント 3章から挙げたものです。もっと他の箇所にもいろいろあるんだけど、主だった御言葉をあげました。

すべてのことを教える。(ヨハネ 14:26)

イエスの話したことを思い起こさせる。(ヨハネ 14:26)

イエスについて証をする。(ヨハネ 15:26)

すべての真理に導き入れる。(ヨハネ 16:13)

やがて起こることを教える。(ヨハネ 16:13)

イエスの栄光を表す。(ヨハネ 16:14)

イエスのものを受けて知らせる。(ヨハネ 16:14)

主と同じ姿に変えていく。(IIコリント 3:18)

聖書に使われている言葉の通りの訳をここに書いたものですから、ちょっと、言い方がぎこちないかもしれません。

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

こういうことを我々のうちに、起こしてくださる。ここに書いてあることは、聖霊が、イエス様のうちにあったものを、我々のところで、かもし出してくださる。我々の内側にメラメラと、こういうのを起こして下さるという、変化。もう一つ有名な、と言いましょ、誰でも思いつく箇所がありますよね。ここには、出してないけど、・・・ガラテヤ書 5 章の 22、23 節の 9 つの御霊の実のところ。愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このような御霊の実が、あるでしょ。

イエスと繋がった！イエス様の成し遂げた『完全な死』を、その信仰の中に、私達は置かれた、私達のうちにイエスの霊が、与えられる。そうすると、イエス様のうちにあった心が、我々のうちにも分け与えられていく。そうすると、今まで、こんな愛はなかった。自分の内側に、こんな喜びはなかった。今までで、こんな平安はなかった。そして、周りの人に対する寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制、こういうものがなかったものが、私のうちにあるではないか。もの凄く大きいものではないけれど、確実に、イエス様を信じ、向き合う前にはなかった。

イエス様の十字架を知る前には、よみがえりを知る前には、こんなものは、私のうちには、今までになかったものが、沸々と出てきているではないか。ですよね。ほら、あなたも【御霊によって知っている】ではありませんか。聖霊は、それをどんどん膨らまして、深くして、そして、我々のうちにイエスの持っておられるさまざまな知識、啓示、理解、真理に導き入れて、くださっている。導かれていくのです。 10:44.15

あの一、それだけではありません。この際、もう一つ見てみましょう。ローマ人への手紙の 8 章を開きましょう。全部細かく読みたいところなんですけれど、14 節をみて下さい。

14 節、神の御霊に導かれる人は、誰でも神の子どもです。聖霊は、私達のうちに、私達を導いてくださるんです。

15 節、あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父」と呼びます。

16 節、私たちが神の子どもである事は、御霊ご自身が、私たちの霊とともにあかししてくださいます。

17 節、もし子どもであるならば、相続人でもあります。私たちがキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているなら、私たちは神の相続人であり、キリストの共同相続人でもあります。

18 節、今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足らないものと私は考えます。

19 節、被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現れを待ち望んでいるのです。 13:26.19

あのね、【神の御霊に導かれるという経験】、それは、聖霊が我々のうちに、いろんな思いを与えてくれる。いろんな、発想を与えてくれる。そしてその発想は、確かに神様からのものだ。聖書の中から言っても矛盾しない。神様からのものだ。そこに、愛があり、喜びがある。そうやって私たちは、受け取り、見極めながら、動いていくのです。それを、【御霊に導かれる】というのです。いいですか？御霊に導かれるというのと、御霊に・・・あえて言うならば、操られるというのとは、違うからね。分かる？この違い。御霊に導かれるというのは、御霊と私の意志が一つとなって、共同してやってる姿です。いいですか、何かの霊に

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

操られるというのは、自分の意志は、もう放り出して、全部、もうそっちに丸投げという、そういうやり方は、御霊のやり方ではありませんからね。

それで、奴隷の霊を受けたのではなく、子として下さる御霊を受けた。で、ここでね、是非、今までも言ってきたけど、『子』という字。聖書では、子、子、と、子供の子をいっぱい使っていますけれど、これね、どうぞ覚えて下さい。原文のギリシャ語では、『子』というのも色々あって、乳飲み子、幼子、それから普通の子供、それから若者、それから大人になって成長して親の相続をきっちり受けて成し遂げることができるという、所謂、大人になった息子、成人した子供のことをいう場合もある。

ここで例えば、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けた『子』というのは、成人したもう親の権利を相続して、いつでも立てますよというぐらいに成長した子を指している。私たちは御霊によって、「アバ、父」と呼びます。

16節、私たちが神の子どもである事は、・・・の子供は、普通の小さい子供のことを言っています。そして17節、もし子どもであるなら、(というのは、普通の子供のことです。)相続人でもあります。私たちがキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているなら、私たちは神の相続人であり、キリストの共同相続人でもあります。そして、とんで、19節、被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現れという、この神の子どもたちは、成長した神の権能を受け継ぐことができる神の息子のことをいっています。そして、21節の被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子供たちの栄光の自由の中に入れられます。ここの神の子どもというのは、普通のちっちゃい子供のことで、22節、ともに産みの苦しみを知っている被造物が、・・・23節、そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら子にさせていただくこと、・・・ここの子は、成熟した神の王権を受け継ぐことのできる子を指しています。18:38.84

一連のこの子ども、子ども、と、いろんな子どもを、もっと他のところでは、もっと幼子とか、なんとか使っているんだけど、・・・何が言いたいかというと、私達は、キリストの霊を受けて、キリストが中にいて、今度は私達のうちに、キリストの霊を受けているんだけど、それは、神の子では間違いない。神の子としてスタートするんだけど、それはまだ幼い子だよって、言ってるんです。

だけど、私達は、幼いままではないよと。うんと、成長していくんだよと。そして、神の権能を自分のものとして、身につけていくほどに、神の相続人として、成熟していく時を迎えるんだよと、言っている。これはね、神の子となったものの【成長過程】を指している。【成長のレベルを指している】んです。だから、「洗礼を受けてクリスチャンになりました。はい、これで毎週礼拝に来て、はい、もうこれで良いんです」という、そんなものではありません。

神様は、【我々との相互内在】を通して、我々をキリストにふさわしい、キリストに似たものとして、日々作り上げていこうという日が出発しましたよ、ということです。20:39.08

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

24 節、私たちは、この望みによって救われているのです。・・・もう分かるでしょう。『救い』っていうのは、「死んだら天国に行けますよ」という約束を【救い】と言っているわけではありません。第一に。それもあるけれど、付随するけれど、今日という日に、相互内在の自分として、このように、成熟に向けて歩き続けていく、歩き続けていっているということが、『救い』なんです。コレ、頭を切り替えた方が良いよ。

21:37.20

次 26 節、御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちはどのように祈ったら良いかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてください。・・・これ、何言っているかわかりますか？

神は唯一で、礼拝を天の父なる神に捧げ、また、子なるイエス様に捧げます。そして、聖霊様に捧げますと言って、天の父と子と聖霊を並べて、この三者に私達が礼拝を捧げますと、いうけれど、もっと、近くに寄って・・・この相互内在の原理、真理をよく分かってきたら、分かるはずですよ。

天の父は、造り主であり、世界を愛して、私達を愛して、すべてのわざを発してくださるお方で、私たちは、父に向き合うのです。

イエス様の中にいる私達は、イエス様を通して、【我と汝の完成した向き合い】が、そこにあるのです。イエス様もそうであったように。だから、父へ、もう一度向き直すことを、完成してくれたお方がイエス様です。私達はイエス様の中で、父と向き合い、父を愛します。

そして、聖霊は、我々がイエス様の中にいる、そして、今度は、イエス様の霊を我々のうちに置いて下さった。つまり、聖霊というお方は、私達の側に、こっちに来て下さったんです。私達のうちに、あなたのうちに、来て下さったお方なんです。あなたの側に。内なる聖霊の助け、助けなる聖霊は、主として来て下さったんです。だから、私たちは、聖霊の助けによって、私達は祈り、その聖霊の助けによって私達は、イエス様を通して父を礼拝するのです。

参加者：聖霊の助けがないとそれは出来ないということですか？

先生：本当の、究極的な完成した礼拝は、出来ません。

参加者：その究極的な完成した礼拝というのは？

先生：イエス様の礼拝です。

参加者：それって、私達の中にすでにもう、備えられているものじゃあないんですか？ 26:01.91

先生：あったんだけど、それが、『我とそれ』『我と彼』に乗っとり込まれているケースがあるんです。

参加者：でも、イエス様が来られたことによって、備えられているのに・・・すみません。私の聖霊の理解が足りないのかも知れませんが、ちょっとそこが、あいまいです。

先生：「聖霊によらなければ、イエス様を主と呼ぶことは出来ない。」と、まで言われている所以は、私達が、気がつくか気が付かないに関わらず、聖霊の働き、助けがあつて、私達は、主に向くことができる。その私達が理解もまだ及ばないところにある聖霊の隠れた助けというものがあることをパウロは、言っていますよね。

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

自分の意識として、「聖霊なんて知らなかったけれど、信じれたわよ」と、「信仰を持てたわよ」と。「悔い改められたわよ」と。私たち人間は、思います。そうなんだけど、そこに至るのも、私たちのうちに聖霊の助けが及んでいたからなんだと、言っているわけです。

ヨハネによる福音書の14章の16節に、私は父にお願いします。そうすれば父は、もうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。17節その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちに住まれるからです。28:42.04

信じ始めた頃に、いつ、どの瞬間に聖霊が私たちの中に入ったか、と、いうことは、私たちにハッキリ、それを分別し、判断する力はありません。けれども、助け主なる聖霊は、私達にハッキリわからないけれど、私たちに及び、私たちに繋がり、私たちのうちに、心のドアを叩き、私達を応援してくれていたんだと、・・・聖霊に対するパウロのこの言い方、ヨハネの記述もね。聖霊は、姿が見えるわけではありませんから、・・・でも、御霊の働きがあったから、私は気がついたんだなど。いつから導かれたかもわかりませんけれどね。30:15.72 いいでしょうか。

それから、さっきのローマ8章のところ26節ですけれど、御霊も同じようにして、弱い私達を助けて下さいます。御霊は私たちの内側に来て、私達を助けて下さる。私たちは、どのようにして祈ったら良いかわからないけれど、聖霊がそれを助けて下さる。

神様に真剣にうめいて祈ろうとする時に、もう、どう祈ったら良いかわからないけれど、【聖霊がとりなして祈って下さる】・・・私は、これは、異言の祈りというものが、それに当たると見ています。でも、ここに異言とは書いていない。でも、異言になってもならなくても、聖霊の思いというものは、働き、助けというものは、私達の内側、ここにやって来ています。31:54.37

ちょっと、「聖霊の助け」ということで、今、異言と言いましたが、異言の祈りを持っている人もいるし、しない人もいますよね。持たないとダメよということはない。けど、確かにね、【聖霊のうめきとしての祈り】というのを、“異言の祈り”をする中で、よく分かります。ですから、・・・パウロは、「私は他の誰よりも多くの異言を語ることを神に感謝している」と言っている。それは、祈る言葉の多さを言っているのか、祈る時間のことをいっているのかわかりませんが、けど、そう言っているんです。で、異言というのは、日本語ではありません。他の国のことばです。だから、何を言っているか、何を祈っているか、わかりません。わからないけど、それね、その意味を解き明かしてくれるのも聖霊なんです。ですから、異言の祈りというのを真剣に祈っていると、今何を、なんのことをどういうふうに祈っているかと言うのが、何となく分かってくる。そうすると、それによって、自分の日本語での祈りが導かれることができます。

異言の祈りを受け取って、奨励をする、それを進めるクリスチャングループにあなたがいるか、過去にいたことがあるなら、聞いたことがあると思います。で、そういうグループにいなかったら、何のことやらわ

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

からないかも知れません。けど、聖書にハッキリ書いてあるので、・・・異言の祈りは、出来ない、知らない方は、お勧めします。ほんとに、主にあるこの【相互内在】の御言葉と真理に立って、「異言の祈りに導いて下さい」と言っ、願ってごらん下さい。そしたら、与えられるようになります。 35:00.96

私も若い時からですが、いろんな場面で異言の祈りをさしてもらいます。本当に困った時、苦しい時、本当に誰にも何も言えないけれど、真剣に主の前に進みでて祈ります。どう、自分の知性で祈って良いか分からないもの、そういう時は、知性で出来るだけ祈って祈り言葉を尽くして祈った祈りのその後に、異言で祈ります。そうすると、自分で考えなくても良いから、朗々と異言の言葉が出て来ます。そしたら、ああ、今これは、自分の深いところのとりなしを吐露して祈ってくれてるなというのが分かる。それとか、ああ、これは賛美しているなというのが分かる。

私も東京に来て 30 年が過ぎますが、来た当初というのは、本当に大変で、経済的にももの凄く大変な時があったんですよ。子どもが学校で払う 1000 円のお金さえ無い。これは、どういうことよ。これだけ一所懸命働いていても。何とか、ここを打開したいといって、電車から降りて家に帰るまでの間、ちょっと前の公園の方を回って、ひと祈りして帰るんです。もう、どうしたら良いかと、・・・私の妻もそう祈ったと思いますが、ずーっと、祈ったらね、そしたら、切ないうめきのような異言から、だんだんと異言と祈りが変わってくるんです。で、本当に突き抜けたような祈りになっていくんです。でも、細かく何を祈っているかは分からない。

でも、その時に、「そうか」と思った。つまり、自分の魂は、頭の中では、気持ちでは、もう、しょげているんですよ。窮しているんですよ。どうしたらここから打開できるかということを切羽詰まっているんだけど、異言の祈りは、切迫詰まりながらも、だんだん余裕が出て来ているんですよ。そして、妙に軽い。問題は、私の心が、意志が、霊の祈りに、合わせられるか合わせられないかの問題になってくる。

私の気持ちが、いつまでもしょげて苦しんで下ばかり見ているのに、霊の祈りはちょっと違うんです。トーンが。そしたら、どうしたら良いの？自分の意志を霊の祈りに合わせれば良いんだよね。でしょ。そしたら、段々と、一発では無理だったけれど、何回も何回もそういう時を持つにつれて、霊の祈り方、そこにある意志に自分の意志を合わせようとするようになってきた。そこには、今まで読んできたことがある神の御言葉がいっぱい詰まっている。それも思い出してくるんです。そうか、そうか、そうかと言ってね。そして、祈りというものが整えられていくのを感じました。

さっき、前半の時に詩篇の 22 篇をちょっと見ましたけれど、イエス様が詩篇の 22 篇の中にあの苦しみ、あの悶え、・・・でも、初めのアダムを思い起こしながら、そして、神様の約束、神に自分は目を向けるんだという決意に、だんだんと変わっていくでしょう。だから、「なるほどなあー」って。「この聖霊の祈りというのは、イエス様を十字架の上で、イエス様と共に祈った、イエス様の霊なんだな」と。それは、「父の霊なんだな」と。 41:12.43

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

ただ、分からない言葉だからって、無意識に語り続けられればいいって言うようなもんだけど、いえいえ、

【御霊と共に歩みなさい】というのは、御霊の導き、御霊の思い、それに敏感になっていくことです。

41:45.30

御霊を消してはいけない（1テサロニケ5:19）、ということ、【御霊を認める】ということ、【御霊の思いに敏感になる】ということ。それが、今私たちの必要なこと。【主と歩む】というのは、そういうことです。

【キリストとの相互内在】というのは、そこにあるんです。私たちが信仰を使うという時も、イエス様の思い、意志、・・・主の思いというのは、御霊が受け取り、御霊が私たちにそれを分かせて下さるんですよ。 42:44.04

30 ページの下から2つ目の段落のところから、少し読みますね。

ということは、イエスの考え方、理解、知識、人格、能力に私たちを至らせてくれる、これが"聖霊の働き"だと言うことです。生まれ変わりをした当初は、イエス自身の持つておられた知識や理解とかけ離れていましたが、"聖霊の働き"によって徐々にイエスの姿に近づいて行くことができます。そして、ついにイエスの知識と私たちの知識は同じになり、信仰も同じになるのです。

これはごく当然なことです。なぜなら1コリント 6章 17節にある『主と交われば1つ霊となるのです』ということが現実だからです。すなわち、イエスの中におられる御霊と、あなたの中におられる御霊はひとりのお方ですから、そこには【イエスとの御霊の一致が確立】されているわけです。【御霊の一致の土台】があれば、次は【信仰と知識の一致が成立】します。これがエペソ4章での順番でした。【霊のレベルで一致】をもたらした聖霊は、次に【信仰と知識のレベルでの一致】へと、私たちを進ませます。

44:39.22

「イエス様と私は別々です」というこのベタな感覚。天の父と私は別々ですから、別個に離れていますから・・・というこの感覚は、ちょっとずつ、シャープに私たちは変えていかなければなりません。

棚の上に飾ってあるお札を見上げて手を合わせてパンパンとして、それを拝み、祈る。それと同じ感覚での礼拝。崇拜の対象としての父なる神であったり、イエス・キリストであってははいけません。そんなことを父なる神が、望んでいるわけではない。イエス様も勿論。礼拝をすとか、主とともに歩むとかの概念がもうカラッと、ひっくり返っていかないとはいけません。

46:25.08

はい、時間が少なくなっていくしますので、もうちょっと進みます。次、大事なところに頭を突っ込みます。

31 ページの二番目の段落。

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

さて、ここで《私の中にいるイエス》の内容の中で、最も重要な理解に進まなければなりません。ペソ 4 章を再び開きましょう。聖霊は信仰の一致と知識の一致に私たちを至らせてくれると言うのですが、問題はどのような種類の信仰と知識なのかということです。信仰の一致と知識の一致が出てくる（エペソ 4 章）13 節に注目してください。このように書かれています。

「ついに私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全に大人になって、キリストの満ち満ちた身だけにまで達するためです」

エペソ 4 章 13 節を理解するために、ちょっとその前後を読んでみましょう。

11 節から。こうしてキリストご自身がある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師としてお立てになったのです。12 節それは聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストの体を立て上げるためであり、13 節、ついに私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全に大人になって、キリストの満ち満ちた身だけにまで達するためです。

凄いですね。私たちが洗礼を受けて、クリスチャンになって、幸せな人生を送るため・・・じゃあないんですよ。【信仰の一致】と【神の御子に関する知識の一致】とに達し、完全に大人になって、キリストの満ち満ちた身だけにまで達するためなんですと言っている。まだまだ先がありますねーと、ここで、言われていますね。凄い内容。で、その次ですよ。本文。

この下線部分に気をつけていただきたいのです。ちなみに口語訳聖書と新共同訳聖書のこの部分も読んで、整理してみましょう。50:12.47

新改訳 「信仰の一致と、神の御子に関する知識の一致」

口語訳 「神の子を信じる信仰の一致と、彼を知る知識の一致」

新共同訳 「神の子に対する信仰と知識においてひとつ」

それぞれの訳文は多少違っていますが、意味しているところは3つとも同じだということがわかります。（そうですね。）しかし問題なのは、「どういった内容の進行と知識なのか」と言うことです。もう一度、下線を引いているところを読んでいくと、

新改訳は、「イエスについての知識」口語訳では「イエスを 信じる 信仰と彼を知る知識」、新共同訳では「イエスに対する信仰と知識」と、言っています。つまり、信仰だけを取りあげて言いますと、この訳のどれもが「イエスを信じる信仰」という扱いになっています。この箇所では、イエスを信仰の対象、あるいは、目的としています。もしこの箇所が単にイエスを対象とした信仰、あるいはイエスという方についての知識でないとしたら、どうなるのでしょうか。52:06.93

下にギリシャ語をとりあげて原文を書いていますけれど、どうか、ややこしく思わないで下さいね。下に日本語をつけてありますから、簡単です。

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

信仰と知識、ここに、(の)、(の) とつけてありますけれど、原文では、神の子『を』ではないんですよ。コレね、この下に説明がついているけど、

『～の』というのは、文法用語で『属格』と言ってね、いわゆる「私のこども」とか「私の机」のように所属・所有を表す格で、単語の語尾が《ou(ウー)》となるのが特徴なんですよ。

本の原文のギリシャ語の単語の下の段の一番終わりは《ou(ウー)》でしょ。

ところが、例外として、形としては【属格】をとっていても、意味内容は『目的格』だと受け取る場合もあるとしているんです。なので、上にあげた日本語訳のように「神の子に対する信仰と知識」と、訳したがるんです。だって、イエス様を信じて救われるからです。

しかし、「～に対する」とか、「～を」というのであれば、『対象』『対格』という『格』が別にあって、その場合、単語の語尾が、《ov(オン)》というんです。でも原文では確かに、《ov(オン)》ではなくて《ou(ウー)》なんです。これを、真剣に受け止めなければならないんです。これが、昔から新約聖書のギリシャ語原文からのちょっと問題、議論になっていたんです。54:31.19

(本文に戻ります。32 ページ一番下の段から)

けれども上の原文を見ると分かるように、ここは確かに《ou(ウー)》属角です。また、「神の子を信じる信仰」などのように「信じる信仰」などという言い方はされていません。まして原文では、「神の 御子に関する知識」という言い方もされていません。

もし、「～に関して」とか「～について」と言うなら

《επι (エピ)》「ヘブル 9:10・・・種々の洗いに関することで・・・」とか、

《περι (ペリ)》「ヨハネ 1:7・・・光についてあかしする・・・」

などという前置詞が、豊富にあるのに使われないはずがありません。ストレートに訳せば、「神の子の信仰と知識」であるにすぎない単純な文なのに、あの日本の代表的な3訳が、いかにこの箇所苦心しているかがうかがえます。55:42.76

では、「神の子の信仰と知識」とは、どういうことですか？

神の子、つまり、イエス様が持っていた『信仰と知識』ということですよ。いいですか？みなさん、ついてきてる？イエス様が『持っていた信仰』なんです。イエス様が『持っていた知識』なんです。56:31.11

そこで、次のところも読みますよ。

要するに、この3訳のような訳し方の説明としては、【属格】を表す場合、そのまま訳した「神の子の信仰」のように、神の子の所属・所有を表す【主格的属格】と「神の子を信じる信仰」のような【目的格属格】があります。そして、このどちらで訳すかは、本文そのものでは分らず、文脈や意味内容などによって判断するしかありません。(＝これ、文法的な説明です)。この箇所が「イエスに対する信仰と知識の一致」ではなく、「イエスの(持っていた)信仰と知識の一致」となれば、意味が通らないじゃん」と、考えたわけです。この翻訳聖書を作る時に。だから、この3訳のような訳をとっているんです。しかし、分解すれば、今説明した通りになるんです。57:35.30

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

はい、次の段落。

しかし、「私はイエスに居り、イエスは私にいます」と言う『相互内在の奥義』からこの原文を読めばどうでしょう。私たちはそんなにいつまでも、イエスに関しての知識のみを求め、イエスとは誰なのかについての啓示と理論のみを求めているのでしょうか。イエスとは誰なのかと言う啓示は、救いに入るときに最低限必要な啓示です。それよりもむしろ私たちは、『御霊の一致の土台』から始めて『イエス自身の持っていた知識』と、『イエス自身の持っていた信仰』に至りたいのです。そうでしょう。そのように聖書は言っているでしょ。栄光から栄光へとイエスと同じ姿にと、・・・私の内なる御霊と、イエスの内なる御霊が、一人のお方ならば、あまりにも当然ではありませんか。

イエスについての知識をいくら持ったとしても、私たちはイエス・キリストの身丈にはなりません。イエスをどのように、どれほど信じるかと言う信仰において、私たちが一致したとて、頭になるキリストの満ち満ちた身丈には達しません。身丈に達するのは、キリストの持っていた知識と啓示、そしてキリストの持っていた信仰に、私たちが至る時です。59:20.19

「神の子に対する信仰と知識の一致」という訳で問題にならないと考えてしまうのは、私たち信者が、あくまでもイエスとは別個にイエスの外に置かれていて、イエスはいつまでも信者の礼拝の対象でしかなく、人間とイエスとの超え難い断絶を想定しているからです。確かにそういった理解で、これまでの時代はまだ乗り越えられたでしょう。しかし、この過度の時代、真理のヴェールが次々と剥がされ、人々の霊に回復された御言葉がダイレクトに御霊によって語られています。多くの礼拝者たちはまだ何が起きているのか理解していないけれども、霊は沸騰してきています。この時代の神の働きを十全に受け取っていかうとすれば、従来の訳では受け取りきれません。霊の啓示は溢れ出しています。これからの『御国の時代』にふさわしい革袋を準備する必要がありますのです。1:00:48.44

さあ、この読み方で、エペソ 4 章 13 節を下に太い字で書いてあります。これを読んで、最後にします。「こうしてキリストご自身がある人とある人を預言者ある人を伝道者ある人を牧師また教師としてお立てになったのです。それは生徒たちを整えて奉仕のわざをさせ、キリストの体を立ち上げるためであり、ついに私たちが皆、神の子の信仰と知識の一致に達し、完全に大人になってキリストの満ち満ちた身丈にまで達するためです。それは私たちがもはや子供ではなくて、ひとりの悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、逆に、もて遊ばれたりすることがなく、むしろ愛を持って真理を語り、あらゆることにおいて成長し、頭なるイエスキリストに達することができるためなのです。」(4 章 11 節から 15 節)

どうですか？今日は、ガッツリ聖書の言葉をたどってきましたよ。このキングダムセミナーで、第一に、何が、主題で言いたいのか、ということを理解して下さい。そして、理解した上で、あなたが、どちらを選ぶのかを決めます。聖書の言葉を読んで、あなたが、じゃあ、私はこっち、そして、御霊の助けを受けて、次に進もうと、・・・だから、今日これを聞いて読んだからって、終わりじゃあないですよ。今日から、この黙想が、この思い巡らしが、自分の内側で、深くなる。耕される。反芻される。そして、あなたの内の助け主、聖霊とともに、それを深めていってほしいんです。

5C⑥回目キングダムセミナー20250614

私がこう言ったからと言って、即あなたに真理となり、神の言葉となるんじゃないですよ。これを聞いたあなたが、神の言葉と御霊と、深く思い巡らして、どれを自分の意志で、あなたが掴んで、『我と汝の関係』を深めていくかです。いいでしょうか。もし、今日言ったことで、意味が分からなかったという点があれば、質問して下さい。

参加者 ローマ章の『子』のところをもう一度教えて下さい。1:05:01.48

先生 はい。

以下の通りです。

↓

ローマ人への手紙の8章

14節、神の御霊に導かれる人は、誰でも（成長した）神の子どもです。

15節、あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けた（成人したもう親の権利を相続して、いつでも立てますよというぐらいに成長した）子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父」と呼びます。

16節、私たちが神の（普通の小さい）子どもである事は、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてくださいます。

17節、もし（普通の）子どもであるなら、相続人でもあります。

私たちがキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているなら、私たちは神の相続人であり、キリストの共同相続人であります。

19節、被造物も、切実な思いで神の子ども（成長した神の権能を受け継ぐことができる神の息子）たちの現れを待ち望んでいるのです。

21節、被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の（普通のちっちゃい）子供たちの栄光の自由の中に入られます。

22節、ともに産みの苦しみを知っている被造物が、・・・

23節そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、（成長した）子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。

以上

賛美